

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度				事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言		款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費			
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-					目標値	-			
中事業	01	主要な取り組み												
小事業	11	健診事業		目標年度	令和6年度									



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	がん及び生活習慣病の早期発見、早期治療を図り、がんによる死亡者を減少させ、生活習慣病の重症化予防を図る必要がある。 各種検診受診率の向上のために、効果的な案内通知、受診勧奨を行う必要がある。				
	対 象	成人健診対象の市民				
	目 的	健診、がん検診を受診し、生活習慣病やがん等の疾患の早期発見、早期治療・生活改善につなげる。				
	概 要	成人健診にかかる申込調査、健診票の送付・結果通知などの事務を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	9,561	10,600	10,475	6,584	4,441
	決算額	8,678	8,954	7,656	6,098	3,856
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	458 / 3,120				



実 績	実 績	成人健診申込案内通知者数（実）41,294人 （内訳）ハガキによるWEB申込案内（実）25,525人 書面による申込案内（実）14,182人 受診案内通知・健診票送付者数（実）17,666人 健診対象者数（延）172,785人（申込調査対象） 健診受診者数（延）16,005人 健診受診率（延）9.3%
	効 果	健診対象者全員に、案内通知・申込調査を実施することで、健診受診の周知・啓発を実施でき、健診受診の動機付けを図ることができた。 令和6年度から、従来の封書送付による書面申込から、ハガキ送付によるWEB申込者対象者を拡大した結果、事務の効率化や申込みの利便性は高まったと考えられる一方で、申込率・受診率は低下した。



ア ウ ト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	受診勧奨実施回数（回）	目標値			55	55
		実績値			27	55
ア ウ ト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	成人健診受診率（%） [全健診 受診者数/B票対象者数]	目標値	10	10	10.5	10.5
		実績値	8.6	9.7	9.8	9.5

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	郵送による受診勧奨の他、広報誌、メール、LINE、イベント等機会を捉えて受診勧奨実施したことで、目標回数に達した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	受診率も低下したが、さらに申込率が低下幅が大きかった。 その原因として、ハガキの送付、WEB申込みとすることで、訴求力が低下した可能性が考えられる。 元々受診意欲が低い者が、書面による申込みでは一旦申し込んだものの未受診となる割合が高かったが、ハガキ及びWEB申込みによる方法では申込みに至らなかった可能性がある。
	実績からR07年度の 事業の方向性	ハガキの送付、WEB申込の対象となる20～64歳の若い世代に対しては、ハガキの送付以外に複数回のメールやLINEによる受診勧奨を組み合わせる等して、健診について啓発する機会を増やすことで、申込み率・受診率の向上につなげる必要がある。 申込みの動機付けを強化できるよう、受診勧奨のハガキやリーフレット等の内容やレイアウトを見直す。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-			目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み								
小事業	19	歯科検診事業	目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	歯周病は、成人期の歯の喪失の主な要因であるだけでなく、糖尿病や循環器疾患等の生活習慣病のリスク要因となるほか、妊産婦においては低出生児出産の要因となる。また、高齢期においては、歯周病予防、口腔機能の維持向上が全身の健康維持においても重要となる。 そのため、定期的な歯科健診の受診ができるよう、普及啓発及び機会の提供が必要である。					
対 象	・歯周病検診 18～74歳の市民 ・訪問口腔健診 要介護3以上で在宅で生活する後期高齢者医療制度被保険者					
目 的	口腔保健への意識を高め、適切なケア・治療、定期的な歯科受診につなげ、医療費の削減を図る。 歯の健康を通し全身の健康および高齢期のＱＯＬの維持、向上を図る。 ・歯周病の早期発見、早期治療と知識の普及を図る ・口腔機能の低下及び口腔内の疾患等の予防を図る。					
概 要	歯と口腔に関する健診を実施し、歯と口腔に関する疾患の早期発見、口腔保健への意識向上、適切なケア・治療、定期的な歯科受診につなげるもの。 ・歯周病検診：歯科医院での検診 ・訪問口腔健診：家庭訪問による健診					
事業費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,020	2,899	2,679	2,679	17,922
	決算額	2,412	2,222	2,129	1,981	16,480
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		125 /				179



実 績	実 績	市民皆歯科健診 受診者数 3,571人 受診率 8.99% 訪問口腔健診 受診者数 0人
	効 果	新たに市民皆歯科健診を開始し、様々な機会・方法で周知・啓発を実施したため、歯科健診及び歯と口腔保健に関する市民の関心が高まった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	加茂歯科医師会の協力を得て、様々な機会・方法で周知・啓発を実施したため、市民の関心が高まり、当初の見込みを上回る受診者数となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	評価指標のデータ取得方法を従来の「健診問診項目」から変更したため、目標値を上回る値となった。 上記に伴い、R7年度以降の目標値を高く変更する。
	実績からR07年度の 事業の方向性	令和6年度の受診率は、若年世代の受診率が低いため、若年世代への周知・啓発を強化して実施する。 また、定期的に歯科受診をしていない、歯科保健への関心が低い者の受診者数を増やすため、歯科医療機関以外での受診勧奨の機会を増やす。 令和6年度受診者のデータを単年度データとして分析すると共に、長期的な分析・評価の方法について決定する。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	市民皆歯科健診受診者数（人） 【R6～歯周病検診 皆歯科に変更】	目標値	720	730	740	600	2,200
		実績値	528	493	461	411	3,571



アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	過去1年間に歯科健診を受けた者の割合（％）[市民満足度調査] 【R6～問診票 調査に変更】	目標値	42	45	47	50	50
		実績値	46	44.1	51	51.5	61.6

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言		款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I					目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み									
小事業	20	がん検診事業		目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	がんは、40～80歳代の死因の第1位である。がんを早期に発見し、がんで死亡する者を減少させるために、がん検診について正しい知識を普及させ、がん検診及び精密検査の受診率を高める必要がある。					
対 象	40歳以上の男女					
目 的	胃、肺及び大腸がんの早期発見・早期治療により、がんによる死亡の減少、医療費の減少を図る					
概 要	がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん）を実施し、がんの早期発見・早期治療につなげるもの。 検診受診勧奨、精密検査受診勧奨を実施し、受診率の向上を図る。 検診パスによる集団検診の他、75歳以上に対しては、医療機関での個別検診を実施する。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	33,301	34,153	33,272	31,328	30,924
	決算額	26,401	26,932	27,792	26,353	29,917
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		793 /				20

実 績	実 績	受診者数 胃がん 1,562人 大腸がん 3,641人 肺がん 2,739人
	効 果	がん検診を受診することで、がんを早期発見・早期治療につなげ、がんによる死亡者数を減少させ、医療費を削減した。



アウト プ ット	活 動 指 標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	受診勧奨回数(回)	目標値				10	15
		実績値				25	15
アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	がん検診（胃・肺・大腸）受診率 （％）[受診者/人口]	目標値				10.5	11
		実績値				8.5	9.2

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	他の健診と併せて、各種方法で受診勧奨を実施し、勧奨回数としては目標を達成した。 ・申込調査（受診勧奨）の送付 ・受診再勧奨ハガキの送付
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	受診勧奨はしたものの、受診にはつながっていない。 ターゲットを絞った効果的な受診勧奨を実施できなかった。
	実績からR07年度 の事業の方向性	令和5年度に、岐阜県「がん検診の受診勧奨策等実行支援事業」として、職員が研修を受講し、またデータ分析ツールの提供を受けたため、それらを活用してターゲットを絞った受診勧奨を継続して実施する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	61	6つのまちづくり宣言		款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I					目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み									
小事業	21	婦人検診事業		目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	がんは、死因別の死亡数の第一位である。 乳がん・子宮頸がんは、女性のがんの中で罹患する人が多く、特に子宮頸がんは30～40歳代の女性で増加傾向にある。 検診を受けることで、早期発見、早期治療につなげ、がんによる死亡者を減少させる必要がある。					
対 象	20歳以上の女性					
目 的	乳がん・子宮頸がん・骨粗しょう症の早期発見・早期治療により、乳がん、子宮頸がんによる死亡率の減少及び骨粗しょう症の予防を図り、医療費を削減する。					
概 要	乳がん検診・子宮頸がん検診・骨粗しょう症検診を実施するもの。 検診パスによる集団検診及び医療機関での個別検診を実施する。 検診受診勧奨、精密検査受診勧奨を行い、疾患の早期発見・早期治療につなげる。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	19,766	19,986	19,149	19,454	18,958
	決算額	15,335	17,039	16,371	17,649	13,365
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		617 /				20



実 績	実 績	受診者数 乳がん検診 1,291人 子宮頸がん検診 1,209人 骨粗しょう症検診 320人
	効 果	がん検診を受診することで、がんを早期発見・早期治療につなげ、がんによる死亡者数を減少させ、医療費を削減した。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	受診勧奨実施回数（回）	目標値				5	10
		実績値				25	25



アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	乳がん・子宮頸がん精密検査受診率（％）（前年度検診分） 【 R7.6月末確定】	目標値				100	100
		実績値				87.2	86.5



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	他の健診と併せて、各種方法で受診勧奨を実施し、勧奨回数としては目標を達成した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	乳がん・子宮頸がんの要精密検査者74人のうち、10人が精密検査を未受診または受診状況未把握（把握不可）であった。結果通知時の文書による受診勧奨の他、再度の勧奨として文書通知や電話勧奨を行ったが、受診につながらなかった。勧奨回数の増加、効果的な受診勧奨の実施を強化する必要がある。
	実績からR07年度の 事業の方向性	令和5年度に、岐阜県「がん検診の受診勧奨策等実行支援事業」として、職員が研修を受講し、またデータ分析ツールの提供を受けたため、それらを活用してターゲットを絞った受診勧奨を実施する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		04	予防接種費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業				K P I		-	目標値
中事業	01	主要な取り組み								
小事業	22	予防接種事業	目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	小児の命に係わる病気や伝染の恐れのある疾病の発生及びまん延を、ワクチン接種によって予防する必要がある。 国の定めた定期的な予防接種は多種多様であるため、ワクチンの種類や接種間隔等の正しい情報を市民及び委託先医療機関に常に提供する必要がある。				
	対 象	予防接種法及び予防接種施行令に基づく対象者				
	目 的	伝染のおそれのある疾病の発生及びまん延予防				
	概 要	・ 予防接種 対象年齢の者に予防接種を行い、感染のおそれのある疾病の発生及びまん延を予防し、市民の健康維持と公衆衛生の向上及び増進を図る。 過去に風しんに係る公的な予防接種を受ける機会がなく抗体保有率の低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までに生まれた男性を対象に、風しんの抗体検査・第5期予防接種を原則無料で行う「風しんの追加的対策事業」を、H31(R1)年度からR6年度まで実施 ・ 予防接種健康被害対策 予防接種により健康被害を受けた対象に対し、医療手当、年金、医療費等を支給し救済する。				
	事 業 費 (千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	160,967	207,875	253,444	238,967	309,178
	決算額	153,408	161,167	167,844	153,430	271,323
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	4,250 / 897				

実 績	実 績	BCG（生後5～8か月）95.4%、四種混合（生後2～90か月未満）36.6%、五種混合ヒブ含む（生後2～90か月未満）65.2%、ヒブ（生後2～60か月未満）28.9%、小児肺炎球菌（生後2～60か月未満）95.0%、MR1期（生後12～24か月未満）97.2%、MR2期（5歳～7歳未満で小学校就学前）89.5%、DT（11歳～13歳未満）76.7%、日本脳炎1期（生後6～90か月）92.3%、日本脳炎2期（9歳～13歳未満）85.8%、水痘（生後12～36か月未満）100.9%、B型肝炎（生後2～12か月）94.0%、ロタ（生後2～8か月）752人・・・ワクチンの種類により回数が異なるため接種率算定不可 接種率は接種数/対象者数（R6年10月時点）のため、100%を超えるものがある
	効 果	適切な時期に接種勧奨をすることで、市民が多様な予防接種を予定立てて実施できるよう手助けすることができた。 予防接種の正しい情報を発信することで、接種誤りを予防した。



アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	接種過誤の発生件数（件）	目標値	2	2	2	2
		実績値	1	1	2	2
アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	小児接種率（％） 接種者9377人/対象者11,097人	目標値	99.2	99.3	99.3	99.3
		実績値	98.8	90	95	95.9

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	委託先の医療機関と市民に正しい情報を適切な時期に共有することで、接種過誤の件数を減らすことができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	5種混合ワクチンから4種混合ワクチンの切り替えがあり、接種率を計算するうえで母数が重複するところがあるため、接種率が低く算出される。
	実績からR07年度の 事業の方向性	令和7年度から高齢者等帯状疱疹ワクチンが定期予防接種化したことに伴い、令和6年度で50歳以上への補助事業を終了する。 高齢者等新型コロナワクチンについて、国からの補填が終了する可能性があるため、接種料金の改定をおこなう。 接種率の低い日本脳炎2期の接種率向上のために、学校と協力し就学時健診のタイミングで啓発を実施する

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業				K P I	-		
中事業	01	主要な取り組み					目標値	-		
小事業	24	かかりつけ医健診事業	目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	結核は毎年市内で10人程度の新規登録者があり、検診を実施することで早期発見にし、感染拡大をさせないようにする必要がある。 生活習慣病は、年齢が上がるにつれて、その発症者が増加するため、若い時期から、健康状態を把握し、生活改善をすることで、発症を防ぐ必要がある。				
	対 象	30歳以上の市民				
	目 的	疾患の早期発見・早期治療、生活改善につなげ、疾患の発症、重症化の予防、健康寿命の延伸、医療費の削減を図る				
	概 要	医療機関において、各種健診を実施し、疾患の早期発見、早期治療、生活改善につなげるもの。 ○検診の種類 ・肝炎ウイルス検診、前立腺がん検診、結核検診、30代健診、特定健診等に準じた健診				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,323	10,584	9,959	8,083	8,132
決算額		8,209	6,487	5,608	5,541	4,711
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		1,300 / 100				

実 績	実 績	受診者数 ・結核検診 493人 ・肝炎ウイルス検診 73人 ・前立腺がん検診 711人 ・30代健診 190人
	効 果	各種健診の実施により、感染症の拡大防止、生活習慣病の早期発見・重症化予防につながった。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	受診勧奨実施回数（回）	目標値				10
		実績値				25
アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	結核検診受診率（％）	目標値				6
		実績値				3.5

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	他の成人健診に併せて、各種機会に受診勧奨を実施し、目標は達成した。しかし、特に結核検診について、受診者数が減少しており75歳以上の者に対し積極的な受診勧奨の実施が求められているが実施できていない。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	年々結核検診の受診率が低下しており、特に75歳以上の者に対し積極的な受診勧奨の実施が求められているが実施できていない。 過去に比べて結核に関する市民の関心が低下していると考えられ、結核検診受診の重要性についての啓発が必要。
	実績からR07年度の 事業の方向性	特に受診者数を増加させたい、結核検診と30歳代健診について、ターゲットを絞った効果的な受診勧奨（対象者の設定、通知媒体の工夫）を実施する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業				K P I	-		
中事業	01	主要な取り組み					目標値	-		
小事業	25	病院群輪番制病院補助金	目標年度	令和6年度						



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	休日に治療を必要とする救急患者の医療を確保するため、地域内の救急医療施設である病院に対し、救急診療業務を委託することは必要不可欠である。受け入れ困難による医療崩壊を避けるためにも、地域住民に対して第二次救急医療体制の確立強化を図る必要がある。				
	対 象	可茂地域の7病院（木沢記念病院・太田病院・可児とうのう病院・藤掛病院・東可児病院・白川病院・桃井病院）				
	目 的	管内の救急医療機関へ補助することで、輪番制方式で日曜日、祝日及び年末年始の昼間における救急診療体制を確保し、救急医療を維持することができ、住民が安心して暮らせる環境が提供できる。				
	概 要	日曜、祝日及び年末年始の昼間における救急診療体制を確保するため、可茂地域の7病院に対し運営補助を行い、輪番制で第2次救急診療業務に当たってもらう。 可茂管内10市町村で、均等割及び人口割により、運営補助を行う。 美濃加茂市と可児市が3年交代で事務局を担い、事務局市が管内を取りまとめ補助金として交付する。（R2-4は美濃加茂市、R5-7年度は可児市）				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	27,115	17,235	27,115	1,512	1,931
	決算額	14,106	5,115	26,394	1,411	1,931
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	201 / 0				



実 績	実 績	可茂地域6病院 への運営補助 1病院への設備整備補助 今年度は可児とうのう病院に対して補助事業実施
	効 果	輪番制を敷くことにより、特定の救急病院に重篤な患者の搬送が偏ることを防ぐことができる。また、救急医療に必要な備品の整備の補助を受けることができる。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	設備整備件数(件)	目標値	1	1	1	1
		実績値	1	1	1	1



アウト カ ム	K P I （単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	受け入れ患者数(人)	目標値	2,100	2,100	2,100	2,100
		実績値	1,100	1,087	1,792	1,100

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	輪番制病院のなかの一病院について、毎年順番に施設整備を行っている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	各病院の空き病床やマンパワー不足から受け入れ患者数が減少している。また、目標設定当初は輪番に中部国際医療センターが加わっていたが、令和5年度からバックアップ的な立ち位置となるため当番から抜けたことにより、受け入れ患者数が目標に届かない数値となった。 6病院で輪番制が機能することを目指し、KPI数値を修正する。
	実績からR07年度の 事業の方向性	各病院の空き病床やマンパワー不足から、当番医を決めていても結局患者の受け入れができないことが多い等、制度としてうまく機能していない部分がある。今後の事業実施について医師会や消防と協議を続ける必要がある。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業					K P I	-	目標値
中事業	01	主要な取り組み								
小事業	26	公的病院等補助事業	目標年度	令和6年度						



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	救急医療体制の維持・設備の充実、地域住民の健康増進及び福祉の向上を図るためには必要不可欠となる。救急患者が増加傾向にあることから、行政として財政的支援を行わなければ、受け入れ困難となり医療崩壊に繋がりがかねない。					
対 象	市内に所在する公的病院等					
目 的	救急医療体制の維持・設備の充実、地域住民の健康増進及び福祉の向上が図られる					
概 要	市内に所在する公的病院等が行う救急医療に要する経費の一部を補助し、救急医療体制の充実を図る。 関係市町村で、利用者数により補助を行う。					
事 業 費 （千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	46,520	46,005	47,399	45,509	42,446
	決算額	46,520	46,005	47,399	45,509	42,446
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		201 / 0				

実 績	実 績	救急受け入れ患者数 14,918人
	効 果	中部国際医療センターは美濃加茂市及び近隣市町村の救急医療を担っており、補助を実施することで地域住民の健康増進及び福祉の向上が図られる。



ア ウ ト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	補助金交付率	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100	100	100	100	100

ア ウ ト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	受入れ救急患者数(人)	目標値	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500
		実績値	9,734	12,081	14,797	14,858	14,918

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	滞りなく補助金を交付した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	目標値には届いていないものの、人手不足が懸念される状況で受入れ救急患者数は毎年微増している。市民には正しい救急医療のかかり方を周知していく必要がある。
	実績からR07年度の 事業の方向性	引き続き、事業を実施する。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-			目標値	-
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	28	休日急患診療事業（定住）	目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	住民が安心して暮らせる環境には充実した医療体制が必要であるが、日曜・祝日及び年末年始の日中の救急患者が救急告示病院に集中し、重症患者の受け入れが難しい状況になりつつあり、患者の救急度に応じた医療体制が圏域内で確保することが求められている。現在は、日曜・祝日及び年末年始の日中の急病に対応できる医療体制を強化し、休日に基幹病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行っている。医療資源に限られた中で、休日等に医療機関を利用する住民が増加している。二次救急を行う救急告示病院への負担（救急利用者の増加、医療資源の減少）が増えている。				
	対 象	休日等における急病患者				
	目 的	休日に救急告示病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行うことで、地域住民が安心して受診できるよう、診療体制を整えることができる				
	概 要	加茂医師会との連携のもと、圏域内の休日急患診療体制を強化し、日曜・祝日及び年末年始の医療体制を整える。休日に救急告示病院に患者が集中することのないよう、一次救急として診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,494	4,554	4,443	4,440	4,371
	決算額	4,494	4,483	4,305	4,372	4,303
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	136 / 104				



実 績	実 績	受診件数2,846件（市内1,539件、坂祝179件、富加124件、川辺244件、七宗51件、八百津148件、白川24件、東白川2件、可児管内301件、その他234件） 休日開院数71回（市内55回、坂祝3回、富加1回、川辺4回、七宗3回、八百津4回、白川1回）
	効 果	休日に基幹病院や休日開業医に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行っている。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	周知回数（回）	目標値	60	60	60	60	60
		実績値	60	60	60	60	60



アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	利用者数（人）	目標値	3,350	3,350	3,350	2,800	3,300
		実績値	1,107	1,623	3,103	2,936	2,846

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	各市町村による毎月の広報掲載に加え、市ではホームページでの案内を実施した。紙面とWEB両面の周知啓発を実施することで、診療を必要とする圏域住民には概ね情報が行き渡っているものと推察している。お盆や年末年始期間には、加茂医師会と連携し、各ホームページやすぐメール等で周知強化を行った。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	全体の受診件数は昨年度より減少しているが、年末年始はインフルエンザの流行、年末の駆け込み受診、帰省者の受診等が重なり、医療機関に相当の負担があった。医師の負担感から当番が組みにくくなっていることは、以前から加茂医師会も問題としてきたため、今後は緊急時以外は受診しないよう周知するなどの啓発が必要。
	実績からR07年度の 事業の方向性	軽症者の受診や検査依頼等が当番医の疲弊に繋がりがり、問題となっている。今後は急患以外は受診を控え、電話相談や市販薬の活用等も勧める等市民への啓発が必要である。

会計区分	01	一般会計	令和6年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01 保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-		目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	29	休日急患歯科診療事業（定住）	目標年度	令和6年度					



イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	住民が安心して暮らせる環境には、充実した医療体制が必要であるが、日曜・祝日及び年末年始の日中の救急患者が救急告示病院に集中し、重症患者の受け入れが難しい状況になりつつあり、患者の救急度に応じた医療体制が圏域内で確保することが求められている。現在は、日曜・祝日及び年末年始の日中の急病に対応できる医療体制を強化し、休日に基幹病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行っている。 医療資源に限られた中で、休日等に医療機関を利用する住民が増加している。二次救急を行う救急告示病院への負担（救急利用者の増加、医療資源の減少）が増えている。					
対 象	休日等における急病患者					
目 的	休日における住民の歯科救急医療体制が確保される					
概 要	休日における住民の歯科救急医療体制を確保するため、加茂歯科医師会と委託契約を行い、日曜日、祝日及び年末年始について、当番医制により診療にあたる。					
事 業 費（千円）		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,504	1,517	1,508	1,527	1,517
	決算額	1,499	1,480	1,480	1,527	1,517
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		136 /				104



実 績	実 績	受診件数157件 （市内91件、坂祝町12件、富加町5件、川辺町15件、七宗町4件、白川町2件、東白川村0件、八百津町3件、可児管内17件、その他8件）
	効 果	休日の突然の歯痛や平日歯科医にかかりにくい市民の受け皿となっている。



アウト プ ット	活 動 指 標 （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	周知回数（回）	目標値	60	60	60	60	60
		実績値	60	60	60	60	60



アウト カ ム	K P I （単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	利用者数（人）	目標値	230	230	230	200	200
		実績値	178	176	141	149	157

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	各市町村による毎月の広報掲載に加え、市ではホームページでの案内を実施した。紙面とWEB両面の周知啓発を実施することで、診療を必要とする圏域住民には概ね情報が行き渡っているものと推察している。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	年内に治療を受けたいという心理から年末の連休は比較的件数が多いものの、受診数が0件の日もある。
	実績からR07年度の 事業の方向性	急な歯科のトラブルに加茂管内で対応できることを幅広い年齢層にPRする必要があると考える。R7年度は当番医を1日1件とすることを検討している。

会計区分	01	一般会計	令和 6 年度 事業評価書				事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業				K P I		-	目標値
中事業	01	主要な取り組み								
小事業	30	2 4 時間電話相談窓口事業（定住）			目標年度	令和6年度				



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	・圏域救急医療が、ひっ迫している。 ・感染症の流行期などにより休日急患診療所の受診者数が増え、医療機関の負担となっている。 ・現在のところ、子ども以外は健康面等に不安がある時に、夜間、休日等に相談できる場所がない。 ・高齢化や少子化・核家族化により、健康や介護の不安を抱えている人や、身近に育児の相談ができる相手がいない人などが増えていると考えられる。 ・夜間・休日に医師不在となる地域も多く不安が大きい。 ・庁内で実施しようとすると、マンパワーもスキルも不十分。				
	対 象	圏域住民				
	目 的	・夜間、休日を含め24時間365日相談できる窓口ができ、安心感につながる。 ・不要不急な救急を少しでも減らし、安定した医療体制を保持する。 ・自己判断ではなく、専門的な知識を持ったスタッフに相談できる。				
	概 要	24時間365日フリーダイヤルで電話による相談ができる。 コールセンターには、専門スタッフ（医師、保健師、助産師、看護師、ケアマネジャー等）が常駐し、健康相談、医療相談、介護相談、認知症相談、育児相談に対応する。（専門事業者への委託）				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	3,280	5,700	5,700	5,735	4,308
決算額		2,871	5,678	5,700	5,716	3,762
年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）		137 / 104				



実 績	実 績	HP等により各市町村がPRした ・相談件数3,118件（市内1,749件、坂祝町113件、富加町92件、川辺町1,065件、七宗町48件、八百津町23件、白川町20件、東白川村0件、不明・その他8件） 入電件数：1,369件（美濃加茂市732件、坂祝町41件、富加町32件、川辺町525件、七宗町23件、八百津町7件、白川町6件、東白川村0件、その他1件、不明2件） 内訳：健診・ドック65件、健康保持・増進139件、気になる身体の症状879件、家庭看護208件、治療（現在治療中の方）614件、母子保健2件、育児79件、夜間・休日の医療機関案内65件、ストレス・メンタルヘルス1053件
	効 果	24時間365日フリーダイヤルで相談できるため、不要不急な救急を少しでも減らし、安定した医療体制を保持。 専門スタッフ（医師、看護師等）が常駐していることで、不安を解消できる相談窓口となっている。



アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	周知、PR活動回数（回）	目標値	12	96	96	96
アウト カム		実績値	12	96	96	96
	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	延べ利用件数（件）	目標値	400	400	400	1,200
		実績値	328	1,064	1,307	1,211

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画されていた各市町村による毎月の広報掲載に加え、一部の町村を除きホームページにて周知啓発を実施している。また、お盆や年末年始において別途ホームページやすぐメール等で利用を促した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	事業者が変わったことにより件数の算出方法が変わり、結果として利用回数が増加している（令和5年度までの業者は頻回利用者があった場合、報告に上げる上限数を決めていたとのこと）。相談件数でなく入電件数が昨年度までの評価指標に近いと、入電件数を実績とする。 特に「ストレス・メンタルヘルス」での利用が多く、緊急ではないが不安を訴えたい、解消したい人の受け皿になっている。
	実績からR07年度の 事業の方向性	夜間、休日を含め24時間365日相談できる本事業は圏域住民へ安心感を与えるものではあるものの、特に利用が少ない町村や特定の人が高頻度利用している町村から「事業の継続はしない」旨の表明があったため、令和7年度は継続の意向がある美濃加茂市、坂祝町、富加町、東白川村の4市町村で実施し、今年度を持って事業を終了することを検討している。事業終了によって市民の不安が生まれないよう、これまで以上に＃7119や＃8000の周知を行う。